

みんなが安心して暮らせる「シェルター」 を考える公開フォーラム

プログラム&資料

目次

これまでの経緯と今回のフォーラムの開催趣旨

本日のプログラム

ミニ報告説明資料

- (1) 心に響く文集・編集局
- (2) 自殺防止ネットワーク風
- (3) 白浜レスキューネットワーク
- (4) ユース・サポート・センター友懇塾
- (5) 自由と生存の家
- (6) サンレーの隣人祭り

自殺のない社会づくりネットワーク・ささえあいの紹介

2010年11月5日

日本財団大会議室

<主催>

自殺のない社会づくりネットワーク・ささえあい
(フォーラム実行委員会)

<後援>

心に響く文集・編集局
自殺防止ネットワーク風
白浜レスキューネットワーク
コミュニティケア活動支援センター

<協賛>

住友生命社会福祉事業団

ご挨拶

私は、福井県・東尋坊で自殺防止活動をしている茂 しげ ゆきお 幸雄と申します。

私から「自殺のない社会づくりネットワーク・ささえあい」の代表の立場から一言ご挨拶をさせていただきます。

ご案内のとおり、

「みんなが安心して暮らせる『シェルター』を考える。」

をテーマに、今回この公開フォーラムを開催しましたところ、全国からこの様に沢山の方がお集まり下さいましてありがとうございました。

私は、今日までに全国から東尋坊に向かって自殺を考えて集まって来られた291人の方たちの話を聞いてきました。

そして、この人たちが口を揃えて言っていた言葉は

「暫くの間あいだで良いんです、『心の整理』が出来るまでの間、誰か『安らく』場所を提供してくれませんか？」

「今、苦しいんです！ この悩み事を解決するまでの間、誰か寄り添ってくれませんか？」

「私の悩み事を聞いてください。そして、一人歩きできるまでの暫くの間で良いんです。誰か私を支えてくださいませんか？」

と言う叫び声でした。

この人たちの求めている「相談に乗る」「支える」「一時避難場所」を提供することにより、多くの人々の命が救われている現実があります。

本日ここにお集まりの方たちは、全国各地で、悩み、苦しんでいる人たちに「精神的」「物質的」に何らかの形で「ささえ」ておられる実践者の方たちです。

そこで、第一部では、この実践されている6団体の代表の方からそれぞれの活動内容をご報告して頂き、第二部では、皆さんに「シェルターってなに？」について、「癒し」「安らぎ」などについて話し合ってもらい、

「誰にでもできる『ささえあい』とは何か？」

について、全国の人に向けて発信できるフォーラムになればと考えております。

本日は長時間となりますが、有意義なフォーラムに成ることをご祈念しましてご挨拶とさせていただきます。

平成22年11月5日

これまでの経緯と今回のフォーラムの開催趣旨

福山なおみ

(自殺のない社会づくりネットワーク・ささえあい事務局長)

自殺のない社会づくりネットワーク・ささえあいでは、人のつながりとささえあいを基本的理念として、3つのサブシステムを考え、昨秋は、自殺防止活動に取り組む人たち ゲートキーパー と、自殺を考えたが思いとどまった人たち フォワード、生活を支え就労を支援する人たち(シェルター)が集って、「自殺多発場所での活動者サミット」-自殺のない社会を目指して- と題してフォーラムを開催しました。

わたしたちは事前に、自殺多発場所と呼ばれる7箇所(東尋坊、三段壁、足摺岬、天瀬ダム、青木が原、宮ヶ瀬ダム、錦ヶ浦)を視察させてもらいましたが、実践活動をしている人がいるところは東尋坊、三段壁の2箇所でした。そこに集ってくる人の多くの思いは、自分に関心を持ち、ここに寄り添い、支えてくれる人がいるからなのです。

しかし、自殺多発場所は、岩場に限ったことではなく、自宅や納屋、松林、学校や職場、病院などわたしたちの暮らしの場であり、言い換えれば自殺多発場所は日本中どこにでもあるということになります。

今春、名古屋で自殺を思いとどまった人の暮らしを支え、就労を支援する活動に取り組んでいる人たちが集って、シェルターネットワークフォーラムを開きました。

シェルター活動は、特別な場所で、特別な人が、特別のことをしているのではなく、ささやかな暮らしの中に、人間が本来もっているケアのところで、隣人に気づかい、ここに寄り添うこと、そして、つながり、ささえあう中に、自分らしく生きているという実感がもてる、そのものがシェルターなのではないかと思うようになりました。

シェルターは、自殺を思いとどまった人にとって自殺企図を繰り返さないための見守りのできる<安全な一時的避難場所>であるとともに、人が生きるうえで重要な<安心できるこころの居場所>であったらと思います。

そこで、今年は、みんなが安心して暮らせる「シェルター」をテーマに、自殺のない社会を目指して、わたしたち一人ひとりができることを考えるフォーラムを開催することにしました。「安全」・「安心」を兼ねた広い意味での「シェルター」について、日常的なささえあいや人のつながりを育てていく仕組みや場を、みなさんと一緒に考えていければと思います。

そして、ここで蒔かれた「シェルターの精神(種)」が、日本中に広がっていったらいいなと思います。

プログラム（目安）

- 13：00 オープニング 茂代表挨拶
- 13：10 ミニ報告「自殺のない社会に向けて何ができるか」
<報告者>
茂 幸雄（心に響く文集・編集局理事長）
篠原鋭一（自殺防止ネットワーク風理事長：長寿院住職）
森崎雅好（高野山大学助教：雅宝庵主）
井内清満（ユース・サポート・センター・友懇塾理事）
菊池 謙（自由と生存の家実行委員会）
一条真也（作家：株式会社サンレー代表取締役社長）
<映像報告：みんなのシェルター>
大西 連（自殺のない社会づくりネットワーク・ささえあい）
〔進行：福山なおみ（自殺のない社会づくりネットワーク・ささえあい事務局長）〕
- 14：20 休憩（会場模様替え：グループに分かれます）
会場の模様替えにご協力ください。
- 14：40 ワークショップ：こんな「シェルター」をつくりたい
<グループごとの話し合い>
8グループ前後に分かれて、次のようなことを話し合ってもらいます。
「私にとってのシェルターって何だろう」
「私はこんなシェルターがほしい」
「こんなことなら私もできそうだな／やりたい」
<発表とコメント>
各グループからの2分程度の発表をしてもらいます。
〔進行：佐藤修（コミュニティケア活動支援センター事務局長）〕
- 16：55 まとめ
17：00 クロージング

<並行して会場の一部で>

14：50～ 報告者へのメディア関係者の取材タイム

お願い事項

携帯電話は必ずマナーモードにし、受信音が出ないようにしておいてください。
会場内は禁煙です。喫煙場所は1階の駐車場の横にありますので、喫煙される場合は必ずそこで喫煙してください。
途中での出入りの場合は、周りの人の迷惑にならないように静かにお願いします。
不明の点などあればスタッフにお問い合わせください。

福井県・東尋坊における自殺防止対策概論

NPO 心に響く文集・編集局代表 茂 幸雄

1 東尋坊での自殺現状

地元警察署の発表によると、過去30年間に646人、ここ10年間で227人が亡くなっており、この数字は10年間に200人以上乗りのジャンボゼット機が一機つつ墜落していることとなります。

また、自殺未遂者として年間130～180人を警察では保護しており、私たちの活動により年間50～60人を発見・保護していることから、年間250人以上の自殺企図者が全国から集合していることになっており、その多くは県外者です。

2 自殺防止対策の現状

平成16年4月、私たちの活動開始時には、地元観光協会会員等による月1回の清掃を兼ねたパトロールと、営業時間帯（午後5時頃まで）における不審者発見時の警察への通報対策が採られていましたが、現在では週3回のパトロールを実施するに至りました。

私たちは活動開始時から、私費を投じて水際に相談所を設けて活動を続けており、現在86人の会員による恒常的なパトロールを行い、年間約800万円以上の経費を自ら捻出して活動してきました。

3 東尋坊で考えられる自殺防止施策

- ・「危険個所の排除」と「上流対策」
- ・自殺企図者に対する「引き止める」「寄り添う」「支える」

4 私たちが実際にやっている自殺防止活動内容

(1)「危険個所の排除」対策

危険個所への「自殺防止監視通報システム」の導入（計画中）
全国にある自殺多発場所を検証し、そこで活動している活動者とのネットワークの構築

(2)「上流」対策

講演会・シンポジウムの開催、その他広報・啓発活動
自殺を思い留めるための、自殺企図から立ち直った体験者等が語る本の出版

(3)「引き止め」対策

恒常的なパトロールを実施し、自殺企図者を発見・保護して自殺をくい止める。

(4)「寄り添い」対策

悩み事を解決するための同伴活動を実施
緊急避難場所（宿舎・生活費など）を提供
人生再出発するための生活基盤を支援（全国シェルター・ネットワークの創設）

(5)「支え」対策

居住地へ帰途後のメンタルヘルス対策（県外会員による支援）
自殺志願者や立ち直った自殺企図者と学識経験者等との「体験者との集い」を開催

5 実施成果

平成16年4月27日からの活動開始以来291人(22/11.1現在)の命を救ってきており、自殺の体験者等から作文を募集した図書4部（「心に響く文集～勝たなくてもいい！負けたらアカン！」「東尋坊～命の灯台」「自殺したらあかん！～東尋坊の“ちょっと待ておじさん”」「自殺をくい止める！東尋坊の茂さん宣言」）を出版しています。

私が住職を務める寺に、過去自殺に駆られた人が多く訪ねて来られました。このため、「自殺志願者駆込み寺」としてお寺を開放しました。すでに、3,000人を超す方々からの相談を受けてきましたが、その多くの方々は、根気よく話を聞き、相談にのることで、自殺を思いとどまりました。

しかし、自殺された方の大半は相談もままならず、命を絶っているのが現実です。できるだけ多くの自殺志願の方々の相談にのってさしあげたい。そのためには、自殺予防、防止活動に賛同していただけることのできる組織を作ることが重要ということで、この度「特定非営利活動法人自殺防止ネットワーク風」を設立しました。

当NPO法人は自殺予防・防止の課題に取り組む賛同者と共に、自殺に駆られている方々並びに自殺未遂者及び自殺者の遺族の方々に対して、相談並びにケアのできる人、時間、場を提供し、自殺予防、防止活動に本格的に取り組んでまいります。

今、自殺に駆られている方、自殺者遺族の方は、どうぞ、お電話を一本ください。また、私達の活動にご賛同いただければ私達の支援の輪に、ぜひご参加ください。

「特定非営利活動法人自殺防止ネットワーク風」は、日本から自殺者が一人でも少なくなることをお願い、「自殺の少ない、生きやすい、明るい社会の実現」に寄与してまいります。

特定非営利活動法人
自殺防止ネットワーク風
理事長 篠原 鋭一

NPO法人自殺防止ネットワーク風 ご案内

本部・東京相談所所在地

本部：千葉県成田市名古屋346 長寿院内
電話：0476-96-3908
東京相談所：東京都豊島区南大塚3丁目1番6号
藤枝ビル4階

全国各地の相談所（裏面をご覧ください）

NPO法人自殺防止ネットワーク風は、お寺を中心としたネットワークづくりを進め、全国各地の自殺志願の方や自殺者遺族の方々の悩み、相談を承っています。

インターネットでアクセスしてください

メールアドレス：soudannet-kaze@nifty.com
(メールでのご相談は受け付けておりません)
ホームページURL：http://www.soudannet-kaze.jp



ようこそ、風の花小径へ...NPO法人自殺防止ネットワーク風のホームページでは、春夏秋冬四季折々の花たちが皆さんのお越しをお待ちしております。次のURLで直接アクセスできます

<http://picasaweb.google.com/soudannet.kaze>

	胡蝶蘭 あなたを愛します		ピオラ 誠実に努めます		あやめ 希望に満ちてます
	クリスマスローズ 不安を取除きます		福寿草 幸せを招きます		

電話相談のご案内

多重債務、過労、解雇、セクハラ
パワハラ、いじめ、不登校、差別・
虐待、子育て疲れ、介護疲れ、
家庭内暴力、うつ病等……………
自殺を考えている方、
自殺に駆られている方、
自殺未遂の方、
自殺者遺族の方、
次の相談所へお電話ください。

相談所電話番号

本部：0476-96-3908
東京相談所：03-6383-2012

東北地区

秋田事務所(月宗寺):0185-79-2468
山形相談所(松林寺):0233-45-2833
福島相談所(長秀院):024-548-1240

関東・甲信越地区

千葉相談所(長寿院):0476-96-2204
千葉相談所(真光寺):0438-75-7414
新潟相談所(東岸寺):025-62-4367

中部・近畿地区

静岡相談所(泉龍寺):0558-72-2485
岐阜相談所(大禪寺):0575-29-0422
愛知相談所(竜谷寺):053-463-2360

四国・九州地区

愛媛相談所(安国寺):089-966-3647
熊本相談所(法泉禅寺):0964-22-1209
長崎相談所(天福寺):095-850-1316

☆メールでのご相談は受け付けて
おりません



草の優しさをお届けします

NPO法人
自殺防止ネットワーク風
Non Profit Organization
Suicide Prevention
Network 'KAZE'

新しい風、
生きる喜び…
大切な「いのち」

お電話下さい、自殺防止・風のネットワークへ…

NPO法人自殺防止ネットワーク風 支援者、参同者募集

賛助会員募集

NPO法人自殺防止ネットワーク風の活動に賛同していただける方は、賛助会員としてご参加ください。ご入会いただきました方には、賛助会員証を発行させていただきます。また、当法人の活動ニュースやイベント等のご案内を差し上げます。なお、賛助会員になられた方も法人に対する責任や義務などはございません。

賛助会員会費

入会金:10,000円 年会費:12,000円
2年目からは年会費のみとなります。

各種募集のお申し込みは下記まで、
お願いいたします。

NPO法人自殺防止ネットワーク風東京相談所
郵送:東京都豊島区南大塚3丁目1番6号
電話:03-6383-2012
メール:soudannet-kaze@nifty.com

日本の自殺の現状… 私達が先ず為すことは…

日本における自殺者は平成10年以降急増し、毎年3万人を越し、平成20年には32,249人の方が自殺で亡くなっており、先進国の死亡率比較では群を抜いています。

この10年の自殺の傾向としては、高年齢層(45歳~64歳)の方々が多く、無職者(含む学生)がその半数以上を占めており、自殺の要因としては経済、生活的な面が強いものと推測されます。

国としても、大きな社会問題となっており、政府としても自殺予防に向けての提言や普及、啓発活動、「いのちの電話」、防止のための予算化等の具体的対策を推進しています。自殺の動機や要因。実態といつたものは十分に把握されてはいますが、なれどもなれどもないのが現状です。

「自殺を考えている人は誰かに話したい」、そんなサインを必ず発してきます。私達の活動は、悩んでおられる、そんな方々の話に「耳を傾ける」ことから始めます。



オキザリスの花言葉:母親の優しさ

自殺防止相談所・ボランティア募集

相談所・相談員募集:当法人では、自殺を示唆する方や自殺者遺族の方々等悩みや相談を受けたいだけのお寺「お寺」やボランティアの方を募集いたしております。国内にお住まいの方は、地域等の制約はございません。ボランティアの資格、ボランティア活動の具体的な内容等詳細につきましては、改めて東京相談所よりご連絡申し上げます。

皆様からの手記を募集

皆様の「命の大切さ」「自殺」に対してのお考え、思い、悲しみ、苦しみ等を手記にまとめてご投稿ください。自殺防止活動の参考にさせていただきます。またホームページ、活動ニュース等でご紹介させていただきます。

* 投稿はメールまたは郵送にてお送りください。
* 投稿される際は住所、氏名、年齢、職業、電話番号メールアドレスを明記してください。
* 掲載の際に匿名ご希望の方はその旨お申し出ください。(原稿は返却いたしません)

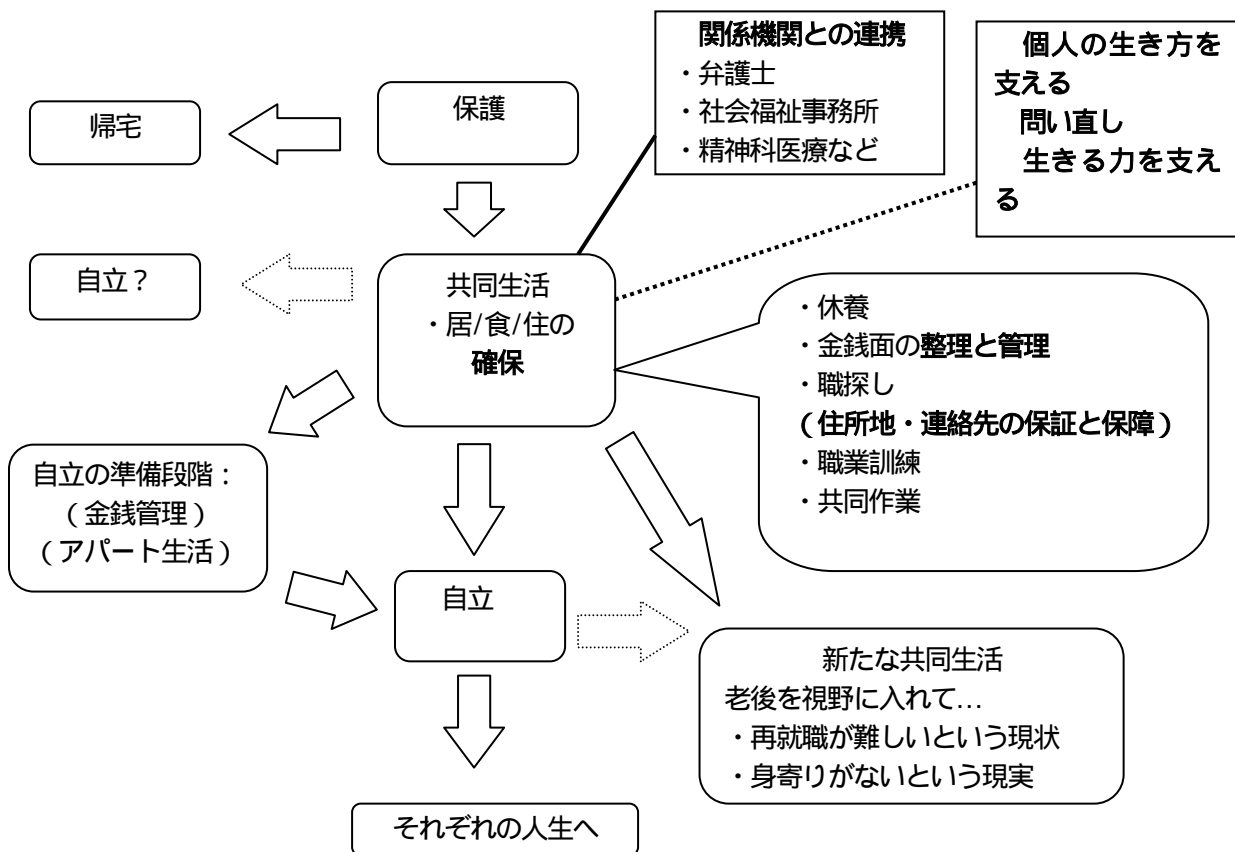
<みんなが安心して暮らせる「シェルター」を考える公開フォーラム>

自殺のない社会をめざして

第1部 ミニ報告と呼びかけ：自殺のない社会に向けて何ができるか

白浜レスキューネットワーク
高野山大学 文学部助教
森崎 雅好 (臨床心理士)

< 1 . 白浜レスキューネットワークの構造 >



< 2 . 再出発に際して必要なこと >

社会や環境の調整と、個人の中の「いきる力」を力づけるために...



自殺のない社会に向けて何ができるか

NPO 法人ユース・サポート・センター・友懇塾

井内 清満

友懇塾の経緯

警察に補導・逮捕された青少年が家裁に送致され審判を受ける。友懇塾は審判なる前の保護的処置の一環として友懇塾の活動に参加し立ち直り支援にかかわっている。

井内個人で平成元年より非行少年の立ち直り支援活動していたが個人での活動に限界を感じ、平成 14 年に設立し翌年平成 15 年 2 月 4 日千葉県より認証され本格的に活動している。

友懇塾の活動

- | | |
|-------------|-----------------------------------|
| 24 時間電話相談活動 | 友懇塾の基本活動 |
| JR 千葉駅前清掃活動 | 毎月第一・三金曜日、午後 7 時～9 時 |
| 里山活動 | 現在二カ所の里山で活動している。 |
| | A) 県有林「癒しの森」2.75 畝（下草刈り、遊歩道整備） |
| | B) 民有地「友懇の森」3.00 畝（空間づくり、オブジェづくり） |
| 街頭補導活動 | 第一・三金曜日、午後 10 時～深夜 2 時頃 |

24 時間電話相談

友懇塾の基本活動である。個人保護の問題もある関係で井内個人で活動している。今では全国から非行問題、ひきこもり問題、不登校、少ないが自傷行為や自殺についての相談もある。

JR 千葉駅前清掃活動

友懇塾の主たる活動になっている。家裁で審判不開始、不処分という比較的軽微な犯罪を犯した少年とその保護者を清掃活動に参加させ立ち直り支援を行なう。他に私が深夜補導した少年等も一緒に参加する。ここで参加した少年等の再犯率は 2%～5%と全国平均 28%と言われる中で極端に少ない。毎年 400 名から 600 名の少年等が参加する。

里山活動

里山活動は、少年の立ち直りに効果は非常に大きい。少年が一定時期までの成長で両親と一緒に同じ内容の活動を一切していない。ここに来ると子どもも叱るし大人のも叱る。子どもと関わり方から道具の使い方、里山で拾った様々な宝物でつくる「オブジェづくり」はぎこちない親子関係から終わるころにはお互い話し合いながら頑張っている。

街頭補導活動

深夜補導するきっかけは永年子どもたちと関わってきて感じたことで始めた。街のどこにも補導専門員等がいなくなってからおもむろに徘徊する子どもたちは夜遅くなってからだ。深夜 12 時になるとあちこちから改造車が集まってくる。いわゆるナンパ族だ若い女性が声をかけて来るのを待っている。話がまとまるといずれかへ闇のなかへ消えていく。こうした中で声を掛け合いお互い信頼関係を築き若者の相談相手になりかかわっていく。親しくなると、家庭のこと、仲間のことなど話が出てくる。こうしたかかわりの中で人間関係を構築できることで立直り支援に役立っている。

関わってみて思うこと

私が数多くの保護者や少年に会って感じることもある。立ち直り支援と称して子どもや親を傷つけていると感じることがあまりにも多いのに気づく。

話を聞いてあげる余裕が大人にない。

説教してしまう大人の多さに子どもは戸惑っている。

話を真面目に聞いてあげない。 そんなことで悩んでいたのか？バカだなあ～
学校は保護者の前で「保護者のご協力のおかげで登校に問題はありません」という管理職のあいさつを聞いて子どもは「この学校では相談できる場所がない」と考える。

保護者は子どものことについて「真正面」から立ち向かうことが出来ない。

保護者の世間体を気にする姿に幻滅する。

子どもの言っではいけない言葉がある「頑張れよ」は禁句

少年に「何かしてほしいことがあったら言って来い」という言葉に真実味がない。

子どもの生活に無関心な保護者の末路は厳しい。

少年院から仮退院してきた子どもに、家庭では「もう恥ずかしいことはしないでよ」

「もう懲りたでしょう」と学校では「もうバカなことはするなよ」と子どもが一番聞きたくないことを平気で言う。

何でもいいから仕事をしろという無責任な大人。

私のかかわり方

黙って聞いてあげて、間を取って、最後に一言「よく話してくれたなあ～」

子どもには絶対に怒ってはいけない。叱ることで信頼感をえられる。

最後に私自身の住所や連絡先などしっかりと教えることが必要

その結果、サッカーチーム「FC 椿森」を結成。全員問題行動を起こした少年や少年院や少年刑務所を非行少年で結成。

1. フリーター全般労働組合について

- 2004年設立 2006年再建組合員数5名
2010年現在200名
- 年齢層20代～40代前半が中心
- 非正規率9割
- 収入：年収180万円未満が2/3を占め失業者も1割程在籍
➢ (含生活保護受給)

2. 住宅部会の活動

- 2008年6月、組合員の生活支援で何が求められているかという議論の中から組合内に住宅部会が設立。
- 同年9月、全組合員を対象に生活実態アンケートを実施。
- アンケートを元に求められる住宅像を固めながら設立に向けて具体的な行動に移る。
- 同時期に有志で自由と生存の家実行委員会が設立され以後は実行委員会により進められることになる。
- リーマンショック以後に起きた派遣切り労働者・失業者の受け入れが活動目標に加わる。
➢ 現在は労働争議中の労働者を受け入れるなど活用の範囲が広がってきている。



3. 自由と生存の家設立までの動き

自由と生存の家設立趣意書

現在、国内労働者の約20%が年収200万円以下という生活保護基準ギリギリの生活を強いられています。更に、不安定な生活を強いられている仲間は派遣切りや雇い止め、解雇とぼろ屑のように使い捨てられ、住処までも奪われています。

労働者はやられてばかりなのか？こんな仕打ちを受けても、生きるためには忍従しなければならいいのか？そんな馬鹿な話はないというのが私たちの考えです。解決のためには、労働組合に加入する、労働組合を結成する、政治的な運動に加わる／起こす、専門家・専門団体に相談するなど、さまざまなアクションが必要です。

私たちは、自らの生活の土台である住宅を自分たちで確保し、運営し、人々が支え合い、出会い、相談し合える場をつくる取組みを提案します。過去20年以上にわたり行われてきた新自由主義政策により、私たちが奪われ、ズタズタにされてきた人と人の繋がりや地域を、そして自治を再生する「自由と生存の家」を設立します。

2009年2月1日
自由と生存の家実行委員会

2008年11月 不動産業者と接触。現在の物件他数件を紹介される。

四ツ谷の物件概要

駅近徒歩一分 木造アパート2棟 総床面積約300㎡
A棟1Fの4部屋を八部屋に改造(1室4畳計16部屋)

2009年2月 アパート改修工事

- ・延べ約550名のボランティア・労働者が参加
- ・当初は完全ボランティア体制で改装を終える予定であったが、工事が進展するに従い建物の損傷が激しく、2ヶ月目より大工さんに入ってもらうこととなる。
- ・工事予算は当初予定の2倍以上となる。
- ・入居は工事の終わった部屋に3月から随時入居となる。(第一号入居者は茨城で派遣切りにあった労働者)

2009年8月 全室オープン

工事期間を通じての総括

- ✓ 物件を決めるときは建物診断を行う
- ✓ 事前に建物のイメージを固め、図面を書き上げる。
- ✓ 準備段階でボランティアが出来ることと専門家が出来ることが切り分ける。
- ✓ 現場の判断を大切に工期設定を行う実行委員会・ボランティア対面での会議を適時開催する。
- ✓ 予算のない中で現場労働者不足をボランティアでしのごうとしたのは判断ミスであった。現場で働く人には一定の対価を支払う体制が必要。また、対価を支払う人とボランティアを明確に切り分ける必要があった。
- ✓ 入居者には、一定組織力のある団体、メンバーを加える必要がある。
- ✓ 現場メンバーの柱が決まると諸々の仕事や作業も安定する。今後は作業開始より、この体制を採る必要。
- ✓ 入居者選定に際しては、実行委員会として基準を作成したほうが担当者の負担が減ると考える。
- ✓ これは当初からの課題であるが、お金集めの仕組みや取組みを現場とは別にすすめることが必要。現場班、お金集めイベント班のようなイメージ。

4. 運営の仕組み

住民のみで構成され家の問題などを話し合う住民自治会（月1回定例開催）

自由と生存の家実行委員会（管理・運営）

サポーターズクラブ（財政的に家を支える有志のあつまり）

呼びかけ人

雨宮 処凛 （作家・反貧困ネット副代表）
稲葉 剛 （NPO法人自立生活サポートセンターもやい理事長）
宇都宮健児 （弁護士・反貧困ネットワーク代表）
斉藤 貴男 （ジャーナリスト）
清水 直子 （フリーライター・フリーター全般労働組合執行委員）
高橋 均 （労働者福祉中央協議会事務局長）
原田 隆二 （有限会社一水社不動産部）
布施絵里子 （フリーター全般労働組合共同代表）
ホルヘ・アンソレーナ （イエスズ会司祭・建築家）

作業ボランティア（フリーター全般労働組合関係者が多くを占めた）

5. 住環境

A棟・101～108号室 間取り：4畳 フローリング 付属設備：エアコン

共用設備：キッチン/トイレ・シャワー 家賃：35,000円～53,700円/月

A棟・201～204号室 間取り：6畳+3～6畳 フローリング

付属設備：キッチン/トイレ・シャワー・浴槽/居室にはエアコン

家賃：60,000円/月 敷金：120,000円（原則5,000円/月で24回の分割払い）

運営の課題

- ・生活費確保の取組み（課題発見と制度活用など）
- ・住民自治発展に向けての取組み（自治会への援助など）
- ・住環境維持の取組み（ゴミ問題、ねずみ問題の解決など）
- ・住民間のコミュニケーション問題をサポートする取組み（騒音問題など）
- ・専従者確保に向けた取組み（事業の維持発展にむけての体制作りなど）

6. 仕事づくりの取組み【自由と生存の野菜市】

私たち実行委員会が出会う仲間の中には80年代から続く自由化・規制緩和の中で、住み慣れた地域や職場を追われ、又は学卒後、最初から不安定な環境に無防備に放り出された人々が多くいます。サブプライムローン問題、リーマンショックに端を発した世界的な不況は大量の「派遣切り」を産み出し、派遣村に代表される家も仕事も無い失業者の大量発生させました。私たち自由と生存の家に住まう仲間も派遣切り、失業など様々な困難を抱えています。生活保護を受け生活の安定を得た後も仕事を得るというハードルを前に苦闘を続けています。この状況を都市も地方も形は変えています。貧困というキーワードで共通の問題を引き起こしています。地方を追われた労働者は派遣切りで生活基盤を失い、働き手を奪われた地方の中には過疎化と経済の地盤沈下、高齢化でコミュニティの崩壊に瀕している所も出ています。自由と生存の家実行委員会として手始めとして都市の貧困層と地方の貧困層を繋ぐ活動の中から仕事づくりが出来るのではないかと考え野菜市を開始しています。

- ・自由と生存の野菜市 09年11月より毎月第2日曜、10年8月より第2、第4日曜日に開催中
住人とボランティアで「野菜市実行委員会」を結成。売上から管理費を除いて分配。
- ・農業で働くための講習会開催を予定
- ・野菜の引き売り（リヤカーに野菜を積み新宿区内を引き売り）・現在は中止している

本年度新規活動予定（中央ろうきん助成プログラムの助成事業）

有機・無農薬農産物に関する基礎講座	（2回）	座学
農業の現場での実習	（2回）	千葉県芝山町の農家を予定
農産物の流通現場での実習	（1回）	
農産物の販売実習	（8回）	四ツ谷自由と生存の野菜市を予定
農村体験講座	（1回）	

7. 今後の方針

- ・自由と生存の家の複数立ち上げを目指す。第2第3の家を目指す。
- ・住人や地域の人々の相談スポットとしての機能を強化する。
- ・自由と生存の野菜市など仕事づくりの試みを強化する。
- ・2010年9月より、事務所をサポーター有志によるフリースペースとして運営。

連絡先：〒160-0005 東京都新宿区愛住町3 自由と生存の家 B-102

電話/FAX: 03-6273-2517 メール: info@freeter-jutaku.org

Web: <http://freeter-jutaku.org/>

株式会社 サンレー
代表取締役社長 佐久間 庸和 (一条真也)



「隣人祭り」とは何ですか？

隣人祭りとは、同じアパートやマンションに住む人・働く人等、地域の隣人たちが、食べ物や飲み物を持ち寄って集い食事をしながら語り合うことで、都会の集合住宅などに暮らす人たちが年に1度顔を合わせる、だれもが気軽に開催し参加できる活動です。必要なのは中庭などのオープンスペースとテーブルだけで、お食事会だけでなく、ゲームやフリーマーケットを開いたり自由です。

この活動は1999年フランス・パリ市の小さなアパートで始まり、今では29か国・800万人が「隣人祭り」に参加しており、日本では2008年5月、東京・新宿区で初めての「隣人祭り」が開催されました。パリの片隅、高齢者の孤独死から始まった、「つながり」の市民運動です。

1999年、パリ17区のとあるアパートで起きた高齢者の孤独死。「住民同士のふれあいがあれば、こんな悲劇は起こらなかった」と、同じアパートに住む青年達が、住民たちに声をかけをし、アパートの中庭でささやかなお食事会を開催しました。それが「隣人祭り」の始まりでした。このパリ17区の小さなアパートで始まった食事会は、パリ市全域からフランス全土へと広がり、現在では世界29か国・1000都市・約800万人が参加する、一大イベントとなっています。(2008年度EU調査)

「隣人祭り」は、だれの心にもある「つながりたい」という気持ちを引き出すきっかけになります。それは、現代社会が抱える孤独、不安、ストレスをなくし、だれにとっても住みやすい、快適な地域社会をつくるための第一歩となるのです。この祭りから現在では、高齢化、育児など様々な社会問題までも解決する礎となり始めています。

「隣人祭り」はこんな場面に有効です！

「隣人祭りは、隣人と、ほんの少し歩み寄る機会をつくること。同じアパートやマンション等、同じ地域の隣人たちなど、ふだんあまり接点のない地域の人たちが、気軽に交流できる場をつくり、知り合うきっかけをつくりたいとき。また、自治会や地元の行事、集合住宅の会合などに、今まで参加しなかった人を集めたいときや、サークル活動やボランティア活動に、同じ地域に暮らす隣人に参加してほしいときなど、高齢者や子どもたち、単身者など含め交流の場をつくるのに有効です。

「隣人祭り」はこんな長所があります。

- ・人が出会い、知り合う。親しくなる。
- ・ご近所さんとの距離感をはかるきっかけになる。
- ・近隣同士、助け合いをするなど、相互扶助の関係をつくる。
- ・様々な地域活動のコミュニケーション・ツールに利用できます。

「隣人祭り」を成功させる5つのステップ

Step1 隣人祭りについて告知しましょう。

マンションや地域にポスターを貼る場所を探し、管理組合や自治会の許可をとって、ポスターを貼りましょう。

Step2. ご近所さんのなかに「仲間」を見つけましょう。

隣人祭りに興味をもつ人が、ご近所や同じ地域に必ず見つかると思います。開催のために一緒に行動してくれる人を探すと、隣人祭りを成功させる大きなポイントとなります。

Step3 お隣りさんは、どのような人たちですか？

ファミリー、ひとり暮らし？高齢者ですか。お隣さんがどのような人たちですか。

Step4 隣人祭りの「きっかけ」を決めましょう。

お隣りさんは、どんな「きっかけ」なら集まってくれるでしょうか？皆さんが顔を出したくなるような「きっかけ」を考えましょう。

Step5 日時と場所を決めて知らせましょう。

だれもが気軽に顔を出しやすい場所、集まりやすい日時を決めたら、チラシを作り、「ぜひご参加下さい」の一言をそえてお隣りさんに渡しましょう。

「隣人祭り」の歩み

～小さなアパートから始まった運動が、ヨーロッパにおける国民的祝祭日になるまで～

- ・パリのアパートで老女が孤独死 1999年、パリで第1回隣人祭り
- ・2001年フランス全域 120万人が参加
- ・2004年ヨーロッパ7ヶ国 340万人が参加
- ・2006年ヨーロッパ22ヶ国 600万人が参加
- ・2008年現在、29ヶ国 800万人の規模に
- ・2008年5月 東京・新宿御苑で開催(2日間で250人)
- ・2009年5月 日本全国「隣人祭り」同時開催
(ヨーロッパ:5月最終火曜日、カナダ:6月第一土曜日同時開催)
(EU正式支援活動に認定)

日本では毎年5月 隣人祭り世界同時開催



2010年5月29日、サンレーグランドホテル(高齢者複合施設)にて「隣人祭り」を開催いたしました。(日本同時開催)



冠婚葬祭互助会と隣人祭り

冠婚葬祭互助会とは？

相互扶助の精神が息づく日本伝統の文化

大勢の加入者の相互扶助で少しでも安く、できないものが、という考えのもと発足した。(昭和23年)

サンレーと隣人祭りの理念

【サンレーの理念】

冠婚葬祭を通じて良い人間関係づくりのお手伝いをする。

【隣人祭りの理念】

同じ建物、同じ地域に暮らす人たち、働く人たちが、より良い人間関係を育むための「きっかけ」をつくる場。

冠婚葬祭互助会と隣人祭りの精神

隣人祭りのキーワード・精神は、「助け合い」や「相互扶助」だから、互助会の精神と似て互助会にも通じるものがあります。

「隣人祭り」は、人生最後の祭りである「葬祭」にも大きな影響を与えます。隣人祭りでは知人や友人が増えれば、当然ながら葬儀のときに見送ってくれる人が多くなるからです。

しかし、結婚式にしる、葬儀にしる、参列者が減ってきているのは事実。この歯止めをしないと、人間関係づくりのお手伝いをさせていただくのは、世のため人のためにもなって、力を入れたいと思っています。まず共通の、一緒に遊んだとか、趣味に打ち込んだとか、共通の経験、体験ができる場を提供していければいいと思うのです。

私どもの会社のミッションは「冠婚葬祭を通じて良い人間関係づくりのお手伝いをする」である。結婚式やお葬儀でお手伝いするのもいいが、結婚式、お葬儀がひとつの家から発生するのは、だいたい25年に一度と言われている。25年に一度しかお手伝いできないのは寂しいし、そうした非日常的なことだけでなく、日常的にもお手伝いするには、隣人祭りがピッタリではないかと思って、積極的に取り組んでいくことにしました。

無縁社会から有縁社会へ

縁 = 冠婚葬祭業のインフラ

(六縁の再構築とその方法)



- 血縁(親戚) 法事・法要
- 地縁(隣人) 隣人祭り
- 職縁(仕事仲間) OB会
- 学縁(同窓生) 同窓会
- 好縁(趣味仲間) 趣味の会
- 道縁(志をともにする仲間) ボランティアの会

サンレーと隣人祭りの理念～孤独死を亡くす。

今、高齢化が進む一方で、問題になっているのが「孤独死」です。高齢者の単身者に多いのか、と思って調べると、多いのは男性の40代・50代の単身者。これから、単身世帯が増えますから「単独死」そのものはあり得ることですから、可能性は、みんな覚悟しなくてはいけないことですが、「孤独死」という問題は人間関係そのものが関係します。血縁、友人、地域住民との関係がよいことです。

北九州市は孤独死が多いので有名ですが、孤独死だけではなく「孤独葬」が多い。孤独葬というのは葬儀の参列者が一人もない葬儀です。この「孤独葬」はなんともお気の毒だと思います。誰にも知られずに一人でひっそりと火葬場に直行する。この人の人生は何だったのだらうと思うと、こんなにお気の毒なことはないと思います。

世界の先進国の中で日本は一番高齢化が進んでいるが、日本の政令都市の中では北九州市の高齢化率は断トツである。人口約100万人のうち、約24万人が65歳以上の高齢者である。しかも1人暮らしの方が多いので、孤独死も非常に多い。

人間、死ぬ時は独りだけれども、参列者が独りもない「孤独葬」は本当に故人がかわいそうでならない。私は、人間にとっての幸せとは、やはり豊かな人間関係であり、自分が生きている間に関わった近所の人、会社の同僚や後輩など、皆が葬儀に来て「惜しい人を亡くした」と惜しんでくれる方が絶対にいいに決まっていると思う。

だから私は、独り住まいの人に、そういう人間関係をつくっていくお手伝いをしようということで、「隣人祭り」を開催していくことにしました。

隣人祭りの開催

- ・2008年10月15日 北九州市八幡で開催(1日で300人)
- ・2008年11月18日 北九州市小倉で開催(1日で150人)
- ・2009年 北九州市で隣人祭りを多数開催(60回)
- ・2010年 北九州市で隣人祭り130回を予定

北九州市を **隣人都市** へ

毎年5月23日の世界同時開催をはじめに、小規模のものを含めると、一昨年より50回以上実施しています。人数は多い時で300名、小規模でも20～50名くらいは集まっています。今年も、100回以上開催する予定です。

その他、当社が全面協力するので、北九州市のプロジェクトにして欲しいと、行政へのお声かけや、朝日新聞後援による「隣人ハートフルエピソード作文コンクール」隣人との心のふれあい・助け合い、隣人関係による心温まるエピソード、隣人とのほのぼのとしたエピソード等の応募掲載を毎日、読売、朝日等新聞各社に行いました。

開催報告 「隣人祭り・夏 ピースキャンドル2010」

2010年8月6日及び7日、サンレーグランドホテル「高齢者複合施設」にて「隣人祭り・夏 ピースキャンドル2010」を開催しました。NPO法人ハートウェル21主催、株式会社サンレーとエフコープ生活協同組合後援により、地域の子供たちや住民を中心に、2日間で約300名が参加しました。

初日は午後5時からスタート。野外ステージではオカリナ演奏やジュニアダンスステージ、そして最期に子供たちによるピースキャンドル点灯式が行われました。

二日目は、豆腐作りや親子で楽しむステンドグラス作り、畳敷き作りなどの体験イベントなど、また両日を通して、紙芝居文化の会の運営員・田中和子さんより「おかあさんのうた」と題した平和紙芝居や、使用済み蠟燭を用いてエコキャンドル制作が行われました。



無料健康教室「隣人祭り」を開催しました。

2009年3月7日、ご近所に住む高齢者の方(65歳以上)にお声がけをして、健康教室を通じてコミュニティづくりをするという企画で、NPO法人ハートウェル21が活動しています。今回は約10名の方が集まり、腹式呼吸を使う「呼吸法」などを体験しました。休憩のときには、参加者同士で話が弾み、あちらこちらでお友達になっていました。



日本の平均寿命は女性79歳・男性79歳といいますが、WHO(世界保健機構)が日本の健康寿命を計ったら男女ともに、平均寿命よりも7歳下回ることが判りました。この7年は、入院の期間、痴呆症の期間などで健康を損なっている期間ということです。

現在は、医療費の問題、介護の問題等、たくさんの問題も表面化しています。

高齢者の方がいつまでも健康で長生きをしていただけるよう、この無料健康教室「隣人祭り」は毎月2回第1土曜日と第3土曜日の会場が空いている日を利用して開催をし続けたいと考えています。



「隣人祭り」合同長寿祝いを開催しました。

2010年10月22日、サンレーグランドホテル(高齢者複合施設)にて「隣人祭り」合同長寿祝いを開催いたしました。



近隣の高齢者が100名、他総勢300名の参加を頂きました。



毎年、NPO法人ハートウェル21が高齢者に対して長寿祝いをしていますが、本年はNPO法人の会員の他に、近隣の老人会および高齢者複合施設の利用者に声掛けをしました。

当日17:00から長寿祝いの参加者は150名位で、神事の後に記念撮影をし、18:30からは近隣の老人会が加わり総勢300名近くに膨らみ、当日は晴天で満月でもあり高齢者複合施設の中庭で食事会になりました。中庭にコップに入れたローソクに火をともし、各人にテーブルに置きました。小さな灯火は、「心のふれあい、つながりを意味するものである」と説明をいれました。

食事は、同施設に「月見御膳」と銘打って協賛していただき、出し物は、地元の神洲太鼓、二胡演奏。同施設カルチャーセンターからはフラダンスの発表があり、盛り上がりました。



最後に、恒例イベントである故人の靈魂をレーザー光線に乗せて地上から月へ送る「月への送魂」を行いました。

参加者全員が、来年の満月も一緒に見ようと満場拍手で散会になりました。

富野地区「隣人祭り」を開催しました。

2009年11月18日(株)サンレー創立記念日に近隣の富野地区の老人ホームや施設のお年寄りを招待し「隣人祭り」を開催しました。



老人ホームや施設のお年寄りを招待し近隣保育園、幼稚園園児による余興歌・組対抗お遊戯会・竹太鼓演奏、マーチングバンド、フラッグシップ、チアガールダンスの発表があり、事前に思いに絵を描いてもらい、プレゼントを行いました。

「隣人祭り」合同厄除け祝いを開催しました。

2010年2月3日の「隣人祭り」合同厄除け祝いを開催しました。近隣の企業から9社、厄除け対象者12名他総勢100名の参加を頂きました。



18:00から節分際を行いました。12名の厄を被い、大杯により乾杯が行われました。持ち寄った恵方巻を食べながら懇親を深め、参加された全員で厄を担い1年の無事を記念しました。

最後になりますが、今年の年末には人間関係を良くする、新しい人との「つながり」の場「隣人祭り」と隣人関係のきっかけづくりをまとめた、『隣人と祭りを！～無縁社会を乗り越える』となりびとの思想』(仮題:三五館)を刊行する予定です。

開催場所:小倉松柏園ホテル 北九州市小倉北区
開催場所:高齢者複合施設 サンレーグランドホテル
「北九州紫雲閣」北九州市八幡西区

自殺のない社会づくりネットワーク・ささえあいの紹介

自殺のない社会づくりネットワーク・ささえあいは、だれもが安心して暮らせる社会を目指して、それぞれができることに取り組みながら、立場を超えて、支え合うつながりを大事にする、ゆるやかな個人のネットワークです。

代表や事務局長はいますが、組織全体として意思を統一したり、組織として行動したりする組織ではなく、それぞれが個人としてゆるやかにつながりながら、共感できる場合にはそれぞれの立場で応援し、誰かが呼びかけて何か活動する場合には（この公開フォーラムがその一例ですが）賛成した人たちでチームをつくり取り組んでいくスタイルをとっています。

ネットワークには、さまざまな考えの人がいて、活動もさまざまかもしれません。しかし、みんなが安心して暮らせる社会、自殺のない社会を実現するためには、そうしたさまざまな考えや活動が、ゆるやかにつながることが大切だと考えています。

参加者をつなげるのはメーリングリストと交流会です。定期的な交流会はまだ東京だけですが、誰かがその気になれば、どこかで始まるかもしれません。誰かが何かをやりようとしたら、できるだけみんなで支えあっていく。それがこのネットワークの精神です。

もし共感していただけたら参加してください。

次回交流会のご案内

自殺のない社会づくりネットワーク・ささえあいでは毎月、だれでも参加歓迎の気楽な交流会（参加費無料）を開催しています。今回の交流会は次の通りです。気楽にご参加ください。

日時：2010年11月14日（日曜日）午後1時～3時
場所：湯島コムケアセンター（文京区湯島3-20-9-603）
<http://homepage2.nifty.com/CWS/cws-map.pdf>
電話：03-6803-2575

2010年11月5日

みんなが安心して暮らせる「シェルター」を考える公開フォーラム実行委員会
内田優子 大西連 菅野綾子 佐川豪 佐藤修 新宅圭峰
杉原学 鈴木輝子 竹下八郎 中村公平 福山なおみ 藤本純一
太長根理恵子 水本寛子 宮部浩司 山縣いつ子

自殺のない社会づくりネットワーク・ささえあい

代表：茂幸雄（NPO法人心に響く文集・編集局代表）
事務局長：福山なおみ（群馬医療福祉大学看護学部教授）
事務局

東京都文京区湯島3-20-9-603（〒113-0034）

（株）コンセプトワークショップ内

メール：sasaeai@gmail.com